

1. 建物概要						
建物名称	沼津商業高等学校校舎棟	BEE	1.7	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度							
重点項目	得点*/満点		取組み度		評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	4.1	/5			よい		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.4	/5			ふつう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.4	/5			ふつう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	4.1	/5			よい		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上		ふつう 3 点以上	
				がんばろう 3 点未満			

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。					
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点		4.1	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①空調設備を設ける室にLow-e複層ガラスを採用。 断熱材に現場発泡硬質ウレタンフォーム 屋根t150、外壁t80、2階床t80を採用。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥敷地内に山林を有す。極力既存の緑地を残す事とする。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦空調設備を設ける室にLow-e複層ガラスを採用。 断熱材に現場発泡硬質ウレタンフォーム 屋根t150、外壁t80、2階床t80を採用。 ⑨空調設備、換気設備、照明設備の省エネ化</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑭リサイクル材 床:磁器質タイル、ビニル床シートの採用 複合フローリング基材に県産材を採用 躯体と仕上の容易な分別 躯体:鉄骨+ロックウール吹付 仕上:LGS下地ボード張 ⑮居室の仕上は全て、F☆☆☆☆又は、規制対象外の建材を採用。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮敷地内に山林を有す。極力既存の緑地を残す事とする</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調、給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔			
		Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上		
		LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制		
		LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 2 2.1 1.2.2 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒		
		LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点		3.4	
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯用途係数1.125 ⑰光ケーブル、地域防災無線(既存)</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備			
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点		3.4
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲建築物移動等円滑化基準を満たす。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ			
	Q-3 3 3.1	⑲ 地域性への配慮、快適性の向上			
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点		4.1	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) ㉓敷地内に山林を有す。極力既存の緑地を残す事とする。</p> <p>■敷地外環境対策 (㉔持続可能な森林から産出された木材/㉕温熱環境悪化の改善) ㉕複合フローリング基材に県産材を採用 ㉕敷地内に山林を有す。極力既存の緑地を残す事とする。</p>	Q-3 1 2 3 3.2	⑳ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ景観への配慮 ㉓ 敷地内温熱環境の向上			
	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑲ 持続可能な森林から産出された木材 ⑲ 温熱環境悪化の改善			

CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 建築(新築)2021年SDGs対応版

| 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	沼津商業高等学校校舎棟改築工	階数	地上5F
建設地	駿東郡清水町徳倉 地内	構造	S造
用途地域	第1種中高層住居専用地域(一部第	平均居住人員	XX 人
地域区分	7地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年8月 予定	評価の実施日	2022年2月1日
敷地面積	77,441 m ²	作成者	粟本剛光
建築面積	2,410 m ²	確認日	202●年●月●日
延床面積	9,600 m ²	確認者	○○○



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	79%
③上記+②以外の	79%
④上記+	79%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.8

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 ZEBreadyを目標とし、外皮及び照明、空調、換気設備を計画している。 中庭を設け、自然採光、自然換気等住環境向上を図っている。 これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果です。		その他 0
Q1 室内環境 ZEBreadyを目標とし外皮計画をしている。 生徒が生活する時間が最も長い普通教室を、自然採光、自然換気等室内環境の最も良い南側に配置した。	Q2 サービス性能 商業高校なので、パソコンを使用する室が多い。商業専門課程教室、職員室、事務室をOAフロアとする。	Q3 室外環境(敷地内) 裏山が有り、自然環境に恵まれている。 景観に配慮したデザイン、色彩計画とする。
LR1 エネルギー ZEBreadyを目標とし、外皮及び照明、空調、換気設備を計画している。	LR2 資源・マテリアル 仕上げ材のリサイクル材採用に努めた。 床フローリング(基材)に県産材(杉)を使用する。	LR3 敷地外環境 採光、換気、通風等、敷地外への影響の少ないよう配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される